



神宮教院、組織ヲ更正シ宗教以外トスノ主旨

4433



114
A 4122



神宮教院ノ組織ヲ更正シ

宗教以外トナスノ主旨

神宮教院ハ明治十七年教導職廢止ト
同時ニ宗教部内ニ編入セラレ他ノ宗旨門
派ト同様ノ取扱ヲ受ルニ至シリ是レ時勢
ノ不得已ヨリ出タル政府ノ措置ナルベシ
ト雖モ決シテ宗教組織ニ成立セシモノニア
ラス去ル明治五年神宮司廳ノ創立セシ
モノニシテ其目的トスル所國体ヲ講明シ
神宮ノ尊嚴ヲ欽仰セシムルニアリ故ニ各
地方ニ教會ヲ設ケ講社ヲ結成シ大森曆
本ヲ頒布スルヲ主務トス明治十五年一月
神宮教導職分離ノ際司廳ヲ離レテ独立

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

申宮院宛

之内務省ノ指令ニ依リ神宮教ト稱セシモ其
務トスル所更ニ異變ナク依然 神宮崇
敬ノ大社團タル然ルニ若シ今日ノ低ニ任
萬經過シ外人雜居ノ曉萬國諸教ト
共ニ宗教制ノ下ニ支配セラル、ニ至ラハ上
神宮ニ對シ下人民ニ對シ去フヘカラカレノ弊
害ヲ釀スル必然ナリ依ラ此際宗教以外ニ
立チ大ニ更正ヲ加フルノ必要ヲ見ル今テ尤ニ
未歷ノ概要ヲ記ス

一 神宮教院ノ創立

明治五年八月教務省ノ達ニ依リ神宮教院主
以下官掌ニ至ルマテ百餘名ノ神宮教導

職ニ兼補セラル依ラ神宮司廳ニ教務課ヲ
置キ始メテ三重度會兩縣ニ布教ヲナス
同年十月教務課ヲ改メテ神宮教院ト稱シ
翌年四月今ノ神宮教本院ヲ設ク尔未其
規模ヲ擴充シ祭主大小官司等各府縣ニ
巡教ニ遠隔ノ地ハ祇宜以下ニ代理ヲ命ジ
布教ニ從事セシム明治八年三月ニ至リ
神宮司廳ニ於テ東京神宮司廳出張所ヲ
ノ地ヲ買得シ東京神宮司廳出張所ヲ
設置シ錦町ノ神宮教會ヲ併置ス今テノ
教院是レナリ明治十年同出張所内ニ
皇大神宮遙拜殿ヲ建設ス即チ今ノ神宮
是ナリ明治十五年神宮司廳神宮教院分

離ノ際出張所ノ地所建物及ヒ其他何努力ノ
本院寄志ク神宮教院ニ附属セラル

二各本部教會講社

神宮教院創立以來教導ノ普及ヲ期スル
ガ為メ教院ニ教長副教長ヲ置キ全國ニ
指揮シ各地方ニ適宜教會ヲ設ク祭主
久近宮殿下教長大宮司田中賴庸副
教長トナルニ至リ教會規制ヲ設ケ全國ヲ
大別シテ十四教區ヲ置キ每區内候宜ノ地
ニ本部ヲ設ク祿且以下ノ重職者ヲ教長
代理トシテ在勤セシメ一國毎ニ教會ヲ置キ
其下ニ分教會ヲ設ク先是明治六七年ノ

交諸府縣ヲ巡回シテ布教ヲ為シ教義ニ感
憤セシ各地方ノ有志者^{及信者}拾収シテ講社ヲ
結合シ地方個々ノ名ヲ設ケタリシモ後全
國ヲ通シテ神風講社ト稱シ規制成立後ハ
各本部教會ニ分属セシムル後漸次布教
ヲ擴張シテ教區本部及ヒ各教會等ヲ増
置シ今ハ全國至ル處教會分教會アラサル所
ナク隨テ講社員モ年々増加シ數百萬人ノ
多教ニ至リ現今ノ各員教ヲ奉クシハ左ノ如シ

- 教區 三十一教區
- 本部 三十一ヶ所
- 教會 四十六ヶ所
- 分教會 百六十ヶ所

所屬教會

十ヶ所

講社事務所

三百十五ヶ所

教會出張所

二十四ヶ所

説教所

三十四ヶ所

講社員

二百七十一万九千九百七十五人

三 神宮司廳 教院ノ分離並現在

職員ノ経歴

明治十五年一月内務省乙第廿七号ノ布達ヲ以テ俄然神官ノ教導職ノ兼補ヲ廢セラレタリ然ルニ 神宮ニハ明治五年午未十年同葬ニ及タシテ組織セシ 教院各本部各教會ノ事業及在勤セシ 教員ノ職員結収セシ

教員ノ講社員等アリ一朝此布達ニ接シ之レカ教正理ヲナス 實具ニ容易ノ事ニアラス是ヲ以テ教導ニ熱心ナル 神宮ノ職員ハ官司兼大教正田中頼庸以下悉ク教職專務カトナリ 神宮教院各本部各教會 神風講社等茲ニ初テ 神宮司廳ノ手ヲ離ルニ至レリ 是レ畢竟 制度上不得已ニ出タルモノナレハ内務省ニ於テモ深ク其事實ヲ察シ 處分条款ヲ定メ 教院各本部等ヲ保護スルニ至レリ 今現ニ 神宮教ニ後事スル 重立タル 職員ハ 神祇官 設置道ノ際 宣教使ニ任セラレ 神祇官廢止後 教部省ニ入リ 明治五年以後 神官ノ 神官ニ奉職シ 明治十五年ニ至リ 神官 教導職ノ兼

補ヲ廢セラルニ至リ 神官ノ神官ヲ辭シ教
導職專務ト成タル者ニシテ前後或十余年
一日ノ如ク斯道ノ擴張ヲ計リツ、アル者ナリ今
其人負テ掲クル尤ノ也シ

一宣教使以來在職ノ者 五名

一教部省長内務省以來在職ノ者 三千七十九名

一神官ヲ辭シ教導職專務トシ者 十名

以上ノ外管長ニ委任以來就職ノ者 六千三百五十九名

四大麻及潛頒布ノ權

明治十五年神官司廳ト神官教院ト分離ノ際
教院各本部及各教會ノ經費管長本部
長職員一般ノ手當教院本部各教會ノ負

債消却方並ニ全國各地ニテ施設セシ事業ノ
完結ニ要スル諸費ノ為メ内務省ノ裁定ニ依
リ特ニ大麻潛本ノ頒布權ヲ神官教院ニ
附セラレタリ抑大麻頒布ハ明治四年旧師職ノ
頒布ヲ廢セラレ神官司廳ヨリ各地方官ヲ經テ
頒布スル事トナリシカ同八九年ヨリ漸次各本部ノ
手ニテ頒布スル事トナリ 十一年ニ至リ地方官ノ
關係ヲ解カレ爾來全ク各本部ニテ頒布シ十三
年ヨリ潛テ添附スルニ至レリ蓋シ頒布權ヲ附セ
ラレタルハ一面ニハ教院經費ヲ補充シ一面ニハ頒
布ノ便宜ヲ謀リタルモノナリ 然ルニ明治十六年ニ至
リ教院理事者ノ專斷ヲ以テ某商社ハ頒布
權ヲ委託セシガ教内ノ紛擾ヲ惹起シ全國

神宮教院

各地麻ノ如ク乱レ其苦情嘆ニ右狀ス可ラサレモ
ノアリキ是ヲ以テ内務省ハ同年十月庚ニ布達
ヲ発シ再ヒ領布權ヲ教院ニ確附セラレタリ茲
ヲ以テ未教院各本部ノ間ニ嚴密ナル規約ヲ
設ケ各本部ヨリ前納金ヲ徴スルノ方途ヲ立テ
双方並常ノ辛酸ヲ嘗メ今ハ七万余圓ノ金額
ヲ前納スルノ基礎ヲ定ムルニ至レリ

